



ペペライトとマンチャナイトが見られる光景

海の底のマグマのふいめきーペペライト

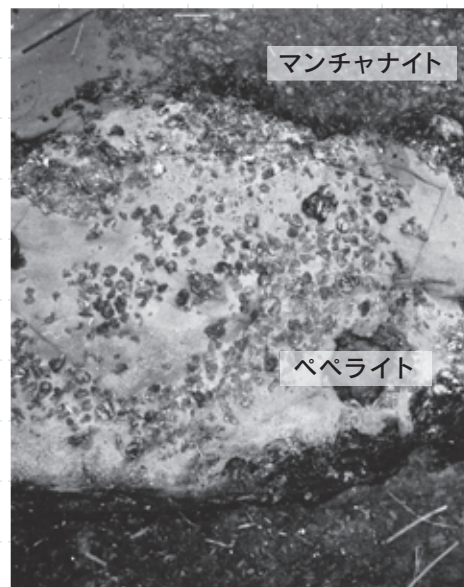
今回はちょっと変わった岩を紹介します。その名は「ペペライト」。きつとお聞きになったことのない名前だと思えます。はじめにおいしそうなご飯を想像してください。そこに黒コショウをかけた様子を想像してみましょう。今回ご紹介する「ペペライト」とはそんな石です。ペペはイタリア語でコショウのことです。あたかもご飯に黒コショウをふりかけたような石ですので、ペペライトと名付けられました。（ライトは石の名前の語尾につけることが多い言葉です。）

ペペライトは水の底でできた石です。今から2〜3000万年前の、まだ八峰町が大陸の一部でしかなかった頃のことです。その頃の八峰町はおそらく浅い海でした。その海の底には、まだやわらかい砂がたまっていました。そこに高温の溶岩がやってきました。たぶん地下からやってきた溶岩は砂の中にもぐりこみます。すると砂の中の水が沸騰して、砂は渦巻くように動いてしまします。溶岩も引きちぎられて砂の中にバラバラになって散らばっていきます。このような砂と溶岩の混じり合ったものが長い年月の間に固まって岩になったもの

が岩館海岸のペペライトなのです。また、溶岩にもご注目ください。この溶岩の中には大きな白い鉱物が入っています。これがとても偉そうな名前なんです。その名も「シャチョウセキ」。まるで社長のすわるイスのようですね。本当は斜長石と書きますが、シャチョウセキがたくさん入っているの、溶岩の方もまだらに見えます。このような溶岩には、第2代秋田大学学長の渡辺萬次郎先生の名前にちなみまして「マンチャナイト」とあだながつけられています。

なお、ペペライトは、濤安の乙女像の下の海岸で見ることができます。

秋田大学教育文化学部 教授 林 信太郎



※八峰町文化祭にて峰栄館に展示してあった岩石は「マンチャナイト」です。

旧岩館小学校で教員免許更新講習を行いました!!

学校の先生方は10年に一度教員免許を更新するために講習を受けなければなりません。そこで、私は「楽しく」、「すぐに役に立つ」講習をしてもらうために、旧岩館小学校をお借りしまして、10月8日から10日にかけて、秋田大学主催の教員免許更新講習を開催していただきました。

一日目は、天文に関する授業「天文教育を楽しむ」が秋田大学教育文化学部の上田晴彦教授により開催されました。八峰町の星のきれいな夜空を活用して望遠鏡での天体観測などについて学びました。

二日目と三日目は私の「火山と地震の実験教室」が行なわれました。わかりやすく、楽しく、すぐに学校の授業で使える実験について学んでいただきました。その中で、実物を見て理解を深めるために八峰白神ジオパーク（構想）をご案内しました。巨大噴火でできたチゴキ岬の岩石、中浜のブラックサンドビーチの

二つはたいへん先生方に人気がありました。

旧岩館小学校に30台もの車が止まってびっくりされた方もいると思います。全県の先生方におおいに八峰町をアピールしたことをご報告したいと思います。

秋田大学教育文化学部
教授 林 信太郎



楽しそうに火山実験キットを製作する県内の小学校の先生方
(旧岩館小学校 家庭科室)

八森中学校・八森小学校で出前授業を行いました

八峰白神ジオパーク推進協議会では秋田大学の林信太郎教授を講師にお招きし、中学生と小学生を対象にした出前授業を行いました。八峰町の地形が火山と大きく関係していることが学べるユニークな実験は生徒達にも大変好評でした。

◎10月14日 八森中学校1年生
「魅を使った火山灰実験」を行いました。細かく砕いた魅を火山灰に見立てた噴火実験を行い、火山灰の飛び方を確認しました。八峰町内にも火山灰が積もって出来た地層があることなどを実験をととして学習しました。



魅の火山灰実験に驚く生徒達
(八森中学校 理科室)



様々な火山を作った児童達
(八森小学校 理科室)

◎10月21日 八森小学校6年生
八森小学校では今年度二回目となる出前授業を行いました。歯型をつくる際に使用する歯科印象材を使い、「火山をつくる実験」を行いました。着色した歯科印象材をマグマに見立て、カラフルな溶岩が積み重なった山を作りました。歯科印象材の濃度（マグマの固さ）によって山や大地の形が変わることを体感できる授業でした。

八峰白神ジオパーク

推進協議会事務局

秋田県山本郡八峰町峰浜

田中宇野田沢20-1 峰栄館2階

☎0185-7013881